

実績報告

診療部

- ・医 局
- ・歯 科
- ・薬 剤 科
- ・放 射 線 科
- ・臨 床 検 査 科
- ・栄 養 科
- ・心 理 室
- ・総 合 支 援 室
- ・デ イ ケ ア 科
- ・作 業 療 法 科





診 療 部

診療部は、医局、歯科、薬剤科、放射線科、臨床検査科、作業療法科、栄養科、総合支援室、心理室、デイケア科で構成されている。

平成25年度の個別の活動報告を概観すると、共通するテーマとして、患者が主体的に病気に取り組むための支援、個別性の重視、家族への支援、地域生活を送るための支援等があげられる。これらは、これまでの退院促進・地域生活支援といった南浜病院の歩みから、課題として自然と浮かび上がったものであり、さらに今後の救急病棟立ち上げという目標にも通じるものである。

平成25年度は電子カルテを導入し、診療部、看護部、事務部との情報共有・意思疎通が促進し、チーム医療が進展したことも特記事項としてあげられる。救急病棟設立という目標に向けて、病院全体の連帯意識が強まった1年であった。

文 責 川嶋 義章

【種 別】

精神科

【職員数】

10名（精神科医 8名 内科医 1名 事務員 1名）

※精神科医 8名のうち精神保健指定医 7名、精神科専門医 5名

【業務内容】

外来診療および入院診療が主な業務である。

[精神科救急] 平成25年度南浜病院は、土曜日・日曜日・祝日の新潟県精神科救急システムに協力した。年間18日、月に1～2日の割り当てであった（救急当番日、電話のみの対応13件/年、外来診察30件/年、うち入院者数15件/年）。平成26年度からは、水曜日・木曜日夜間の救急当番が追加され、地域の基幹病院としての機能を担う予定である。

橋野医長、児玉医師の2人が新たに加わり、医局の戦力が充実した年であった。平成26年度から熊田医長の入職が予定されている。

[とよさかクリニック] 川嶋副院長、豊岡医長、澁谷医長がとよさかクリニックに出張し、稲月医師と共にクリニックの診療にあたった。1年間診療件数延べ7,371名

[地域精神保健への協力]

措置鑑定 6件、措置入院 9人、また県や市の精神保健に関する各種会議、思春期相談事業、精神医療審査会、簡易鑑定、医療観察法の判定医業務、認知症サポート医など協力を行っている。

[会議・委員会]

医局連絡会議；基本的に第1と第3月曜日、午後4時半から、30分～1時間で開催されている。主な参加者は、医局、事務部長、看護部長、その他必要に応じて参加する各部署の担当者である。同会議では、病院の診療に関わる様々な議題について報告、議論、提案がなされた。

その他、病院の各種会議・委員会には、全体会議；医局医師全員、経営委員会；鈴木理事長、後藤院長、川嶋副院長、医療安全対策委員会・リスクマネージャー委員会；川嶋副院長、院内感染防止対策委員会；後藤院長、鈴木理事長、褥瘡対策委員会；鈴木理事長、NST委員会；鈴木理事長、行動制限最小化委員会；豊岡医長、医療観察法運営委員会；後藤院長、衛生委員会；後藤院長、薬事委員会；鈴木理事長、後藤院長、川嶋副院長、病院食検討委員会；後藤院長、鈴木理事長、退院支援委員会；後藤院長、地域生活支援会議；澁谷医長、未収金対策委員会；鈴木理事長、後藤院長、デイケア科運営委員会；後藤院長、精神科救急病棟準備委員会；後藤院長、が参加している。

[参加学会]

第109回日本精神神経学会学術総会 in 福岡（後藤院長、澁谷医長）、第33回日本社会精神医学会 in 東京（後藤院長）、家族研究・家族療法学会第30回東京大会（後藤院長）、SST普及協会第18回学術集会 in 愛媛（後藤院長）、デイケア学会第18回年次大会 in 長野、心理教育・家族教室ネットワーク第17回研究集会仙台大会（後藤院長、豊岡医長、川嶋副院長）、第9回統合失調症学会 in 京都（後藤院長）、日本「性とこころ」関連問題学会第5回学術研究大会 in 東京（新澤医師）、第11回日本褥瘡学会関東甲信越地方会学術集会 in 千葉（鈴木理事長）、第2回日本精神科医学会学術大会 in 埼玉（鈴木理事長）、新潟精神医学会

【今後の展望】

平成28年度の精神科救急病棟立ち上げに向けて、時間外診療、措置入院の受け入れ等を中心に、医局全体で取り組んで行く予定である。

文 責 川嶋 義章

【実 績】

平成24年度、平成25年度、時間外診療（外来・入院）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H24年外来	10	10	8	5	8	18	38	19	6	10	11	11	154
入院	1	3	0	4	3	1	2	0	2	0	7	2	25
合 計	11	13	8	9	11	19	40	19	8	10	18	13	179
H25年外来	10	19	20	9	19	18	7	12	13	13	6	11	157
入院	5	7	3	4	1	5	1	5	4	8	1	4	48
合 計	5	26	23	13	20	23	8	17	17	21	7	15	205

【職員数】

7名（歯科医師6名：新潟大学医歯学総合研究科より派遣 事務員1名）

【業務内容】

病棟及び外来の患者を中心に、以下の歯科診療を行っている。

- ・虫歯治療、冠・義歯等の製作
- ・歯周病治療及びメンテナンス（定期的な検査、専門的清掃による口腔管理）治療
- ・歯科疾患予防検診・処置・口腔ケア
- ・特別養護老人ホーム「なぎさの里」への訪問歯科診療

入院患者に関しては、精神科主治医・看護師・病棟スタッフらと連携することにより、治療内容やメンテナンスの期間等、患者の状態に合わせた治療を提供している。

なぎさの里への訪問診療についても、看護師及び介護スタッフと連携して、綿密な治療計画のもと、QOLに配慮した口腔ケア・歯科診療を行っている。

【今後の展望】

院内にある歯科という特長・意義をふまえ、生活習慣の改善と歯科疾患の予防に重点を置き、継続した口腔管理を積極的に行う。患者の口腔状態を改善させることにより、全身の健康をサポートする。また、訪問診療・口腔ケアを通して、来院困難な患者に対しても口腔健康増進に努め、QOLの向上に貢献する。

文責 伊藤きみ子

【実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
診療 延べ 人数	169	178	180	179	153	166	193	158	164	152	154	151

【職員数】

4名（薬剤師3名 事務員1名）

【業務内容】

平成20年11月の外来処方箋の院外完全移行により外来患者の調剤が無くなり、現在薬剤科における主な業務の中心は院内処方箋に基づく調剤と、病棟における薬剤管理指導業務となっている。その他、病棟及び家族会での心理教育（薬物啓蒙講義）、各病棟で行われるケースカンファレンスへの参加、各種委員会（医療安全対策委員会、リスクマネージャー委員会、院内感染防止対策委員会、褥瘡対策委員会、NST委員会、教育委員会等）への参加とチーム医療関連の業務も近年多くなってきている。また例年全国規模で行われる精神科における処方調査（精神科臨床薬学研究会により行われる調査）にも参加しており当院での薬物治療の処方状況把握、及び全国との比較を行い、医師にフィードバックしている。

【今後の展望】

上記にも述べたように、今後更に病院の方向性とも相まってチーム医療関連の業務が増えると予想される。各専門職と協働しながら、更には薬剤師独自の服薬指導等で得た情報を医師に還元することにより、安全で適切な薬物治療がなされるよう努力していきたい。また薬剤師の原点である調剤に関しても、自動化が進んでいるが、過信せず正確な調剤を行うことを心掛けていきたい。

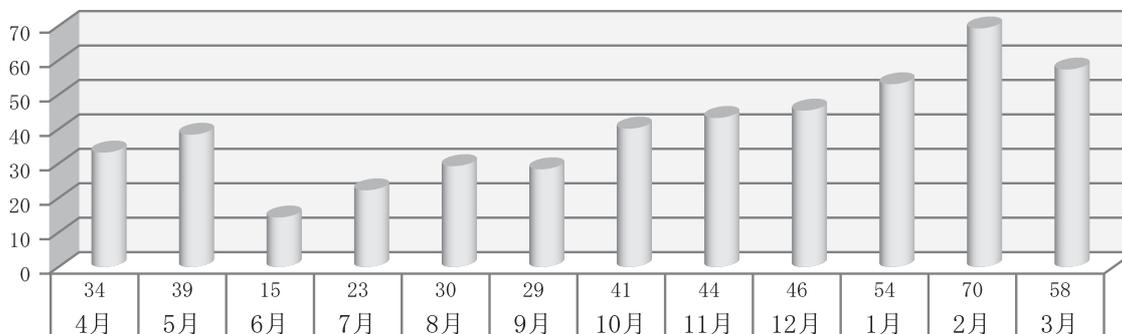
文責 川島 伴子

【実績】

① 薬剤管理指導料件数

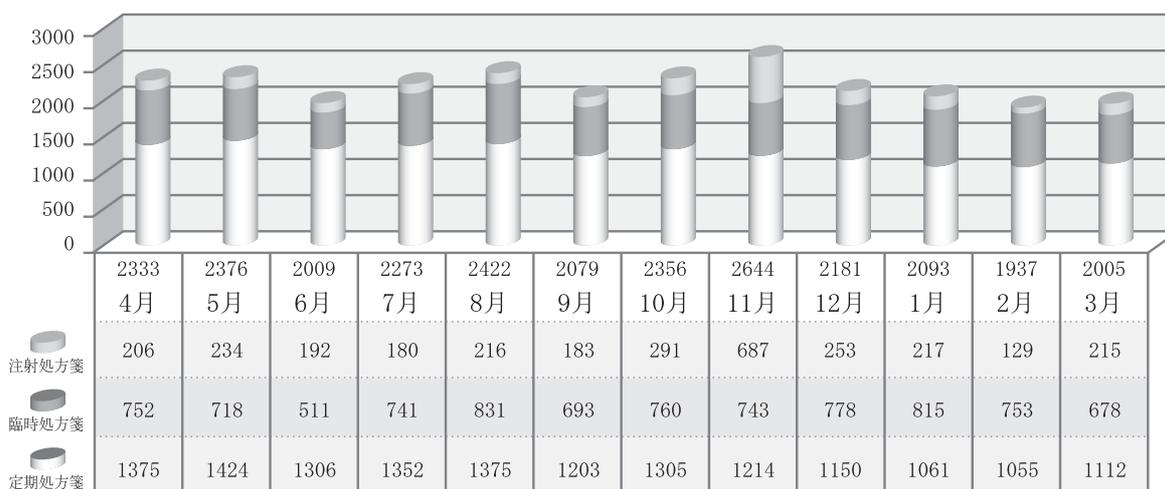
(薬剤管理指導料 2・薬剤管理指導料 3・退院時薬剤情報管理指導料の合計件数)

薬剤管理指導料総件数



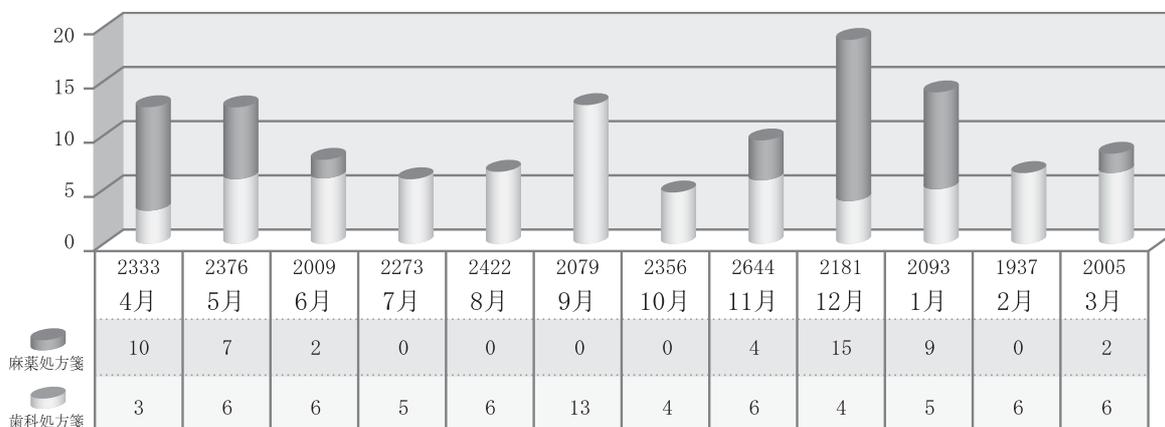
② 処方箋枚数 (定期・臨時・注射処方箋)

処方箋枚数 (定期・臨時・注射処方箋)



③ 処方箋枚数 (歯科・麻薬処方箋)

処方箋枚数 (歯科・麻薬処方箋)



【職員数】

2名（診療放射線技師2名）

【業務内容】

当部署では、X線撮影装置と全身撮影用CT装置を備えて、外来および入院の患者に対して担当医師からの画像検査の指示により一般撮影（胸部、腹部、全身の骨等）とCT単純検査（頭部、胸部、腹部、脊椎等）を行っている。撮影・検査目的として、胸部領域では肺疾患の検索とその精査並びに経過観察、経管栄養用胃チューブ位置確認、腹部領域では腹部疾患の検索、頭部領域では精神障害の一因となる脳病変の検索及び頭部打撲等に因る頭蓋内疾患や骨折の検索等、全身骨領域では骨折や骨・関節疾患の検索等である。

作成された各々の画像データは撮影・検査後にPACSで電子的保存管理を行っており、平成24年1月より全ての画像はフィルムレスとして、担当医師が参照用モニターで読影している。また、必要に応じて外部の機関に読影を依頼し、その読影結果を画像と共にPACSで電子的保存管理している。さらにPACSを活用して他の医療機関との相互的な画像データの作成と受け取った画像データの保管も行っている。

全ての医用画像機器（一般撮影装置、CT装置、PACS）に対して技師による日常点検と関係業者による定期的な保守点検を行うことで、機器トラブル等の医療事故が生じないように努めている。

【今後の展望】

医療事故が生じないように日々の点検業務を遂行し、患者が受けるX線被ばくの軽減に努めながら最良の画像データの提供を行う。あわせて画像の電子的保存管理も行っていく。

文責 石田 均

【実績】
(1) 一般撮影検査数

撮影部位	件数
胸部	515
腹部	13
骨・関節	26

注：1人で2方向の撮影は1件とする。

(2) CT検査数

検査部位		件数
頭部	外来	143
	入院	137
胸部		70
腹部		18
脊椎		15
その他		2

注：その他は全身（頸部～骨盤領域）。

【職員数】

2名（臨床検査技師2名）

【業務内容】

全入院患者及び外来患者の臨床検査（検体検査・生理検査等）を実施している。検体検査では入院患者に対し、原則毎月1回（療養病床では指示により3ヶ月毎の方もいる）の定期採血を実施し身体的変化をフォローしている。また定期採血に合わせて向精神薬の薬剤血中濃度も同時に測定しており薬剤治療における適切な治療域管理を実施している。外来患者においても年1回の採血を原則とし、病態及び服薬状況に合わせて検査頻度を変えて身体的状況の把握に努めている。

生理検査では主に心電図検査を定期的に行っており、各病棟の形態に合わせて検査頻度を設定している。脳波検査は医師の指示を受け、個別に実施している。外来患者においても入院患者と同様に検査を実施している。

その他職員健診は年2回実施しており春の健診は全職員を対象に、秋の健診は夜勤業務従事者を対象として実施している。

【今後の展望】

現在、精神科救急病棟立ち上げに向けて病院全体で取り組んでいる。それに伴い新規入院患者が増加、検査数も増えた。外来においても精神薬の副作用モニタリングとして最低でも年1回の検査を実施、ここ数年で検査数はほぼ倍に増えた。また患者増に伴い多種多様な疾患を持つ患者が増え、検査に対する必要性が増してきている。

これからの病院の発展、並びに今後の医療業界の進歩に合わせ、絶えず新しい情報を収集し、将来性のあるシステム作りを行い臨床に貢献していきたい。

文責 村木 憲一

【実績】

(1) 検体検査実績一覧

	平成 24 年 度	平成 25 年 度
1 階 北 病 棟	265名 (8,698件, 内 TDM 61件)	292名 (9,622件, 内 TDM 61件)
2 階 病 棟	738名 (24,570件, 内 TDM 68件)	808名 (26,409件, 内 TDM 68件)
3 階 病 棟	780名 (26,195件, 内 TDM145件)	832名 (27,820件, 内 TDM123件)
4 階 病 棟	334名 (10,866件, 内 TDM 75件)	396名 (12,344件, 内 TDM 67件)
5 階 病 棟	647名 (22,739件, 内 TDM148件)	713名 (24,272件, 内 TDM132件)
外 来	600名 (24,012件, 内 TDM131件)	866名 (33,837件, 内 TDM284件)
職 員 健 診	214名 (3,719件)	220名 (4,044件)
合 計	3,578名 (120,799件)	4,127名 (138,348件)

(2) H25年度生理検査実績一覧

	心電図検査実績	脳波検査実績
1 階 北 病 棟	88件	1件
2 階 病 棟	348件	1件
3 階 病 棟	208件	5件
4 階 病 棟	122件	0件
5 階 病 棟	108件	1件
外 来	284件	1件
職 員 健 診	114件	0件
合 計	1,272件	9件

【職員数】

2名（管理栄養士2名）

【業務内容】

全病棟の患者を対象に栄養管理計画書を医師、看護師、薬剤師、管理栄養士が共同で作成している。特別な栄養管理が必要とされた患者には栄養計画を提示、定期的にモニタリングを行い適切であるか評価している。毎月BMIを算出し、入院患者の低体重比率を出している。低体重や低Alb値の場合、病棟や患者名、前月のBMIを記載し、低栄養患者が毎月何名いるか一覧表を作成している。2ヶ月連続して体重が減少した患者様の一覧表も月ごとに栄養科で作成している。毎月のNST委員会に参加し、低栄養患者の一覧表はNST委員会の参考資料として使われ、他職種との情報共有に活用している。

栄養指導指示箋に基づき、入院・外来患者に栄養指導を行っており、3階・5階病棟の心理教育では栄養に関する集団教育を実施している。作業療法の調理実習では、衛生指導に加え調理法や栄養成分に関する説明をし、デイケアでは、生活習慣病を予防する内容等の講義を行っている。また、毎月「みなみはま栄養たより」を作成し、健康や栄養に関する情報提供をしている。

検食簿や毎月の残菜調査結果を参照し、給与栄養目標量に基づいた献立を作成している。病院食検討委員会で挙げられた意見を基に行事食やイベント食のほか、地産地消メニューを提供し、昼食時に病棟訪問を行い、患者の摂食状況を確認している。

委託会社と協力し、食材料管理・衛生管理・施設整備管理を行っている。

【今後の展望】

入院・外来患者を対象とした集団栄養指導や調理実習を実施し、在宅でも患者自身が健康管理に取り組めるよう支援する。また、摂食障害や高齢者を対象としたハーフ食の導入と地産地消に力点を置き、地域、生産者との交流により、食への興味や安心を感じてもらおう。

文責 吉川 萌

【実績】

(1) 提供食事数

延食数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院	22,955	23,431	22,425	23,671	24,603	23,962	24,466	23,195	23,953	24,693	22,870	24,390
デイ他	835	874	855	1009	968	816	1069	1011	927	900	862	897

(2) 食事提供者数

延人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院	7,652	7,810	7,475	7,890	8,199	7,987	8,155	7,732	7,984	8,231	7,623	8,130

【職員数】

5名（臨床心理士5名）

【業務内容】

外来・入院患者を対象に心理検査や心理面接（カウンセリング）、また患者家族を対象とした心理教育や家族相談会を行っている。その他、提携企業へのメンタルヘルス研修や行政と連携した地域での家族会を実施している。

心理検査は質問紙や投影法といった検査用具を用いて、患者の病態把握や病状理解、性格傾向などを把握し、治療の援助や心理面接へのアセスメントとして活用している。

心理面接ではアセスメントをもとに精神分析的心理療法や認知行動療法など患者の治療に有用な心理療法を用い、生活上の問題を自身でコントロールできるよう支援したり、過去のトラウマや葛藤体験の整理を促し、更なる精神的な発達とよりよい生活への支援を行っている。

患者家族への心理教育については、「家族に対する病気や薬への疾病教育」と「家族の抱えている問題を家族同士でそれぞれの体験を活かして話し合うグループワーク」を他職種スタッフと共に実施している。

その他、地域の企業や行政に出向き、ストレスケアを中心としたメンタルヘルス研修や家族相談会を実施し、地域貢献を行っている。

【今後の展望】

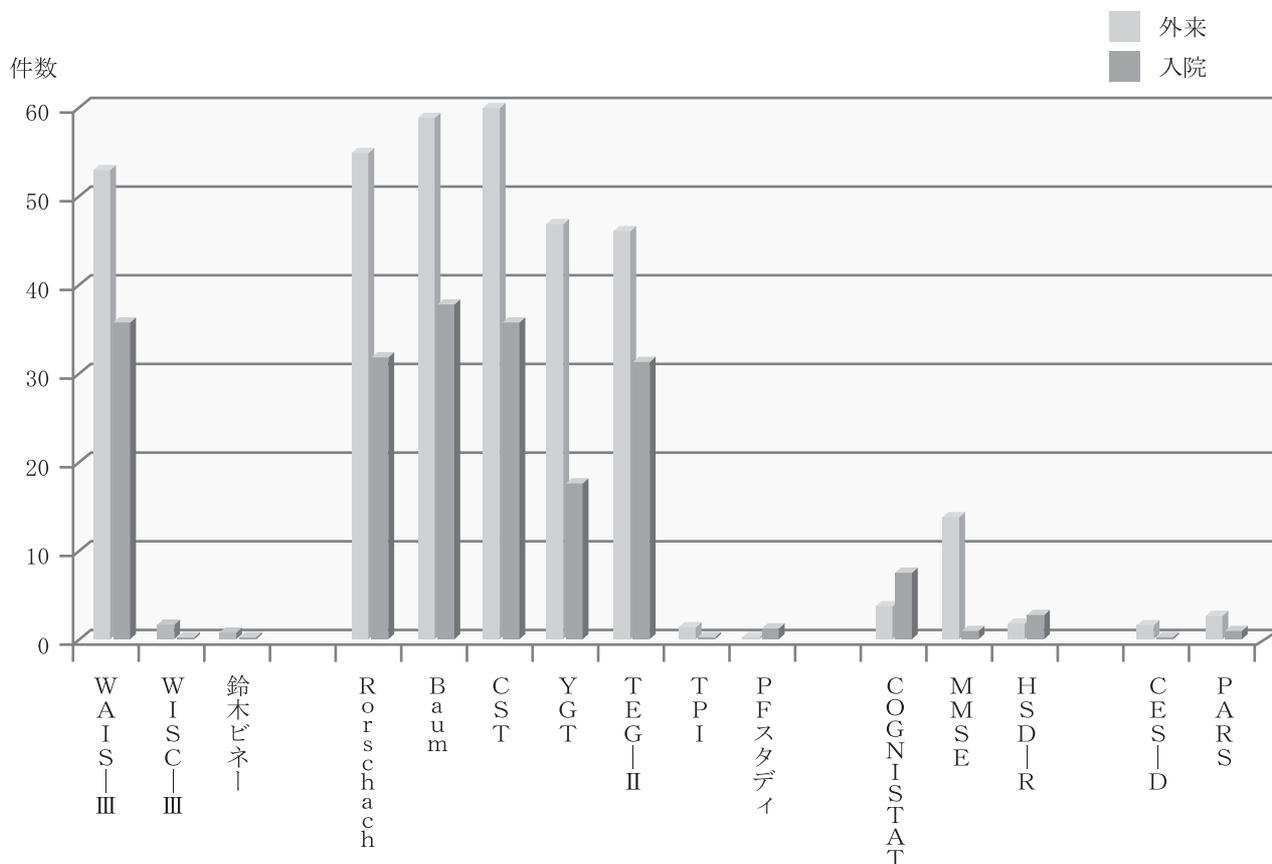
臨床心理実践が患者やその家族にとって、より有効に作用していくために、日々努力・研鑽を積んでいきたい。

患者や家族のニーズに沿った支援を具体的、現実的に考え実践し、地域に選ばれる病院を目指して、必要な臨床心理サービスを行っていきたい。

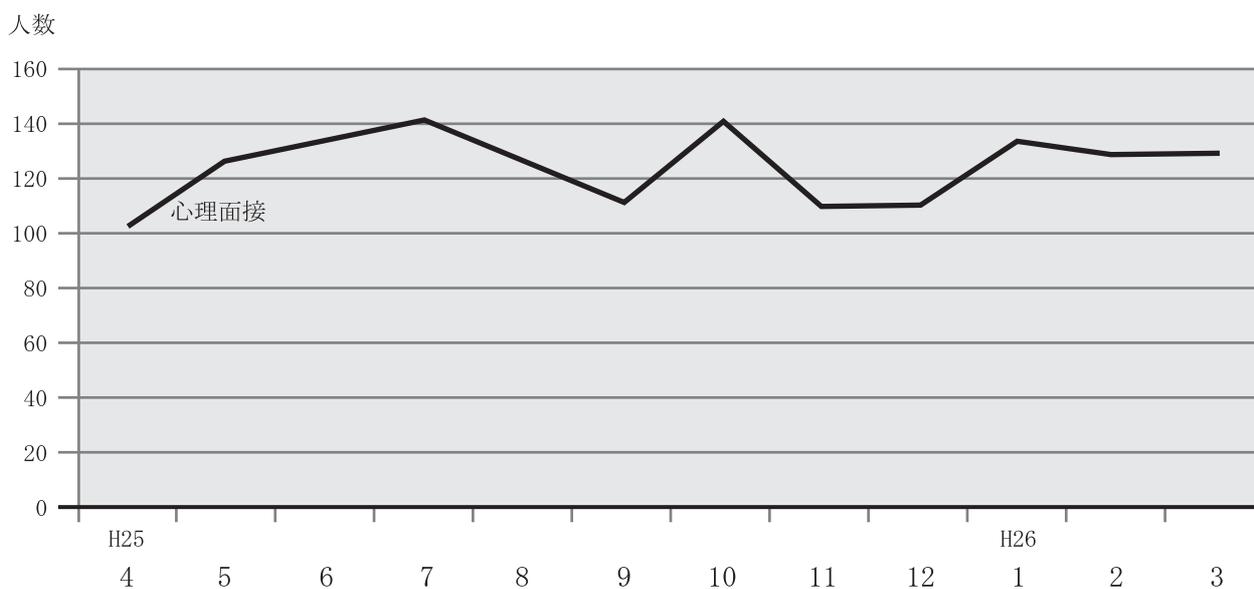
文責 中川甚一郎

【実績】

H25年度 心理検査実施件数



H25年度 心理面接実施回数



実績報告
診療部

【職員数】

14名（精神保健福祉士10名 看護師 4名）

【業務内容】

- 相談および連携業務
- 精神科訪問看護
- 共同住居管理
- 各種プログラム協力
- 外部会議等出席
- 実習受け入れ
- 各種調査、アンケート協力
- その他

【今後の展望】

1. 相談および連携業務

- (1) 入通院者の増加に伴い、相談内容もより多岐に渡り、複雑化している。限られた時間と人員で様々な相談に対応するには、業務の合理化や効率化を図る必要がある。また、より質の高い支援を担保するために、技術や知識の獲得、情報の共有に努めたい。
- (2) 総合支援室及び急性期治療病棟専従の精神保健福祉士間における連携、協働、引き継ぎ、情報共有を滞りなく行い、統一性のある、かつ切れ目のない支援体制を構築したい。
- (3) 他機関との情報交換やニーズ把握に努めることで、連携の強化を図り、かつ迅速で良質な対応を目指したい。
- (4) 救急病棟開設に向け、精神保健福祉士に求められる役割や機能を探り、必要な準備を行いたい。

2. 精神科訪問看護

訪問看護延べ件数や新規利用者は年々増加している。初発及び症状動揺傾向にある方、身体疾患を併発している方への訪問看護も増えており、ケアの困難度も高まってきている。また、開始時や評価時、終了時において、他部署や他機関との協働や連携を推し進めていきたい。

3. 共同住居管理

近年、共同住居入居者の高齢化に伴う心身状態の変化を認める。高齢障害者の支援という新たな課題に対し、地域との協働を図り、入居者の望む人生や生活の実現に向け、支援していきたい。

文責 吉川 牧子

【実績】

(1) 精神保健福祉士業務実績（3階病棟精神保健福祉士含む）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
受診・受療 援助	266	250	187	358	319	309	281	232	195	192	275	295	3,159	
経済問題 援助	36	38	26	27	27	19	44	24	10	35	39	28	353	
背景・要因 把握	84	83	50	99	89	66	64	69	78	69	67	57	875	
治療・療養 上の援助	94	122	96	115	104	94	87	75	117	106	82	89	1,181	
社会・家庭 生活上の 援助	102	114	122	154	151	141	163	116	132	107	92	115	1,509	
制度利用 援助	161	117	103	166	134	136	157	156	150	156	145	157	1,738	
退院・社会 参加への 援助	139	158	138	176	206	127	109	134	136	182	157	106	1,768	
アフターケア 訪問看護	188	174	175	108	155	139	275	246	284	237	230	306	2,517	
その他	136	176	126	214	181	173	149	155	140	134	124	126	1,834	
援助 方法	面接	357	387	338	461	469	382	387	350	362	416	372	362	4,643
	院内 調整	259	242	148	290	248	212	233	202	172	188	200	187	2,581
	電話 文書	435	479	414	613	560	542	540	491	525	453	512	532	6,096
	院外 訪問	155	124	123	53	89	68	169	164	183	161	127	198	1,614
総数	1,206	1,232	1,023	1,417	1,366	1,204	1,329	1,207	1,242	1,218	1,211	1,279	14,934	

※各項目は新潟県医療社会事業実績報告の項目を基準として分類

(2) 精神科訪問看護業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ件数	266	286	267	300	271	250	295	275	250	243	231	242	3,176件
稼働日数	21	21	20	22	22	19	22	20	19	19	19	20	244日
1日平均	12.6	13.6	13.4	13.6	12.3	13.2	13.4	13.8	13.2	12.8	12.2	12.1	13.0件
新規者数	3	4	2	1	2	5	4	1	2	5	0	2	31名
終了者数	3	1	1	0	2	2	1	2	0	1	0	0	13名
登録者数	100	103	104	105	105	108	111	110	112	116	116	118	—

(3) 共同住居入居者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
金権家 (定員13)	12	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
吉田家 (定員12)	11	11	11	11	11	11	11	11	11	12	12	12

(4) 精神保健福祉士業務年次推移

年度(年)	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年	H24年度	H25年度
延べ件数	7,653	8,123	6,767	8,650	11,171	16,781	14,934
月平均	637.8	676.9	563.9	720.8	930.9	1118.7	1244.5

※平成19年～23年までは年単位集計。

※平成24年度は集計期間修正のため、平成24年1月～平成25年3月までの15か月集計。

(5) 精神科訪問看護年次推移

年度(年)	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
延べ件数	1,011	1,378	2,258	2,567	2,598	2,937	3,176
月平均	84.3	114.8	188.2	213.9	216.5	244.8	264.7

【職員数】

9名（看護師5名 精神保健福祉士3名 作業療法士1名）

【業務内容】

当デイケアに通所してくる当事者（以下メンバー）に対し、個々の目的達成に向けて様々な活動を提供している。集団プログラムでは学習講座、就労支援、SST、認知行動療法、スポーツ、園芸、創作、調理、音楽活動、文化活動、メンバーミーティングなどを実施。メンバーミーティングでは全員から意見を出してもらうために、小グループに分かれ、イベント企画の立案やプログラム・設備の要望、苦情などの意見交換をし、デイケア運営に反映させている。学習講座では他部署のスタッフや業者、地域のスタッフと連携し、必要な最新情報をタイムリーに提供している。個人プログラムではパソコン、カラオケ、ビリヤード、卓球、麻雀、将棋、ビーズ手芸、編み物などメンバーのニーズに沿って実施し、集団を苦手とするメンバーにも対応している。

また、3ヶ月に1度はメンバーと担当スタッフで面談をし、何ができて、何ができなかったかなどを振り返りながら目標の再設定を行い、デイケアに通う目的の再確認をしている。

その他、月に1度デイケア科運営委員会において医師や急性期病棟看護師、外来看護師、心理士、総合支援室と情報交換を行っており、随時当事者のニーズに合わせたサービス提供ができるよう取り組んでいる。

【今後の展望】

ピアサポーターの育成やイベントの企画・運営などメンバー主体の活動を徐々に増やし、自己表現の場やメンバー同士でサポートし合える場を提供していく。

メンバーが目標を達成し、卒業していただけるシステム作りを地域と連携し、開拓していく。

また、リスク管理を徹底し、メンバーの安全に十分配慮した環境を整え、活動できるよう配慮する。

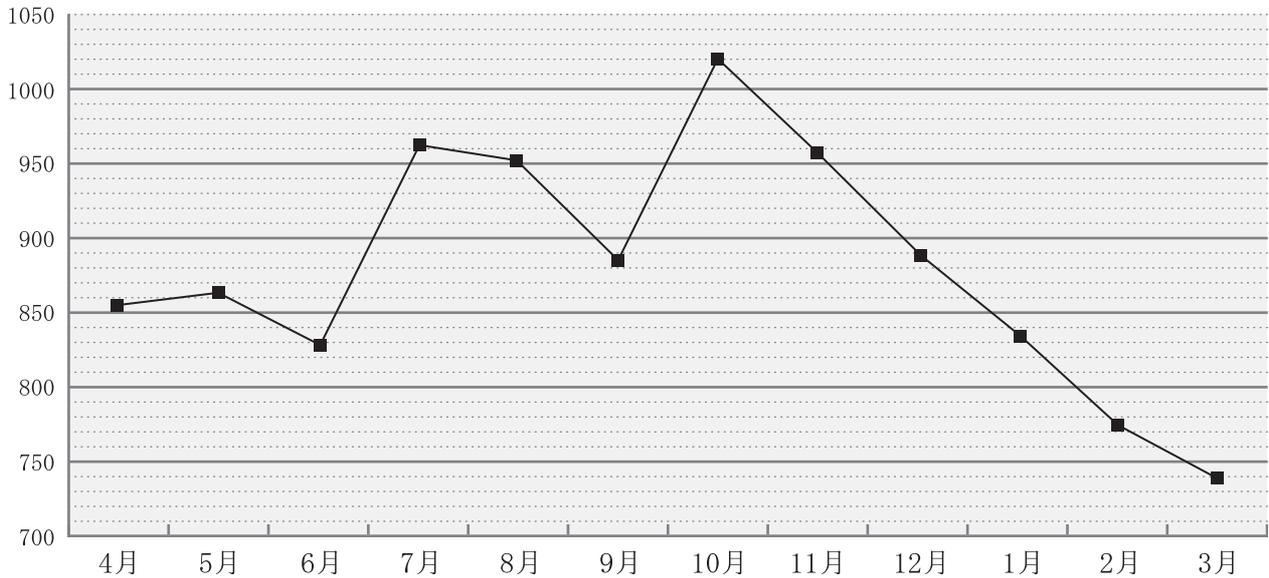
文責 布施江利子

【実績】

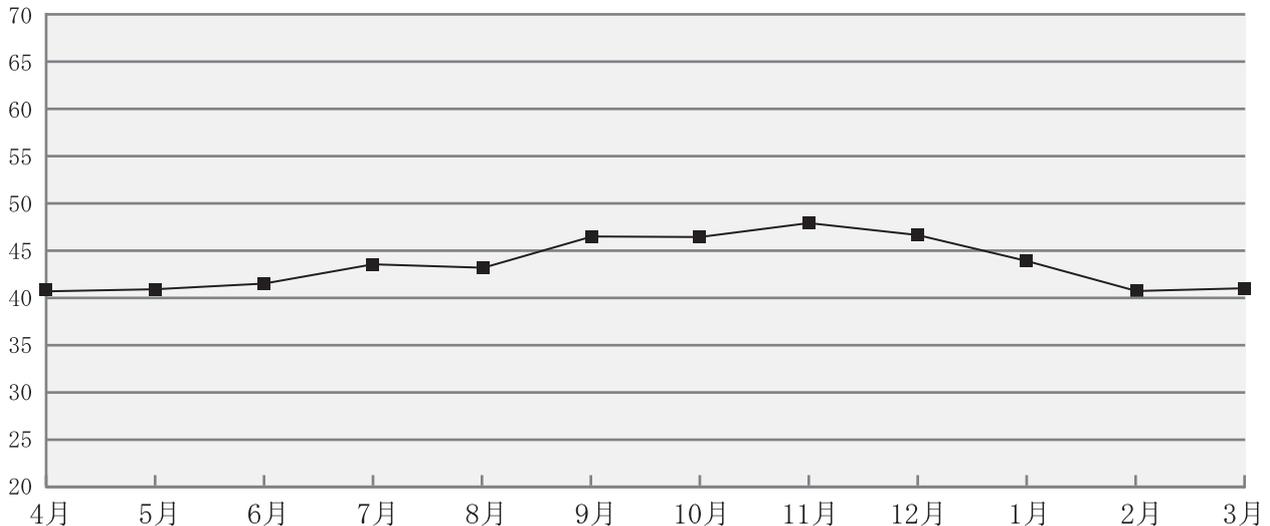
H25年度精神デイケアメンバー利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
登録人数	117	117	118	107	108	110	111	112	111	112	113	114	112.5
延べ利用人数	855	862	829	962	952	884	1021	959	888	834	775	740	880.1
内ショートケア人数	163	166	156	176	169	143	125	99	117	75	83	66	128.2
稼働日数	21	21	20	22	22	19	22	20	19	19	19	18	20.2
平均利用人数	40.7	41	41.4	43.7	43.3	46.5	46.4	48.0	46.7	43.9	40.7	41.1	43.6
新規登録	0	0	1	1	1	2	1	2	0	0	1	1	0.8

延べ利用人数



延べ利用人数



【職員数】

11名（作業療法士10名 作業療法補助1名）

【業務内容】

入院と外来の患者で医師の指示がある方を対象に精神科作業療法（以下；OT）を実施している。「チームでの関わり」をベースに各病棟の看護師と共に、その病棟の特殊性・患者層に合わせたプログラムを提供している。

他の特色として、「フリーカラオケ・個人OT・外来OT」が挙げられる。フリーカラオケは、毎週土曜日の午前中2時間、OT室を開放しDAMカラオケシステムと図書を自由に使用できる環境を提供している。個人OTでは、身体的な障がいを併発しているケースや、個別の関わりが有効と思われるケースに対して担当看護師や主治医が診察時に必要と判断した際に個人OT指示箋を振出し必要に応じた援助を行っている。また、外来OTでは、毎週火曜日の午前に1セッション実施しており、小集団を維持することで重厚な関わりを保てるよう人数制限を設けながら退院後の生活適応の一助とすべく行っている。加えて、2階病棟には廃用性症候群の防止を目的に身体リハ担当の作業療法士が専属として精神面の他に身体面へのアプローチを重点的に行っている。

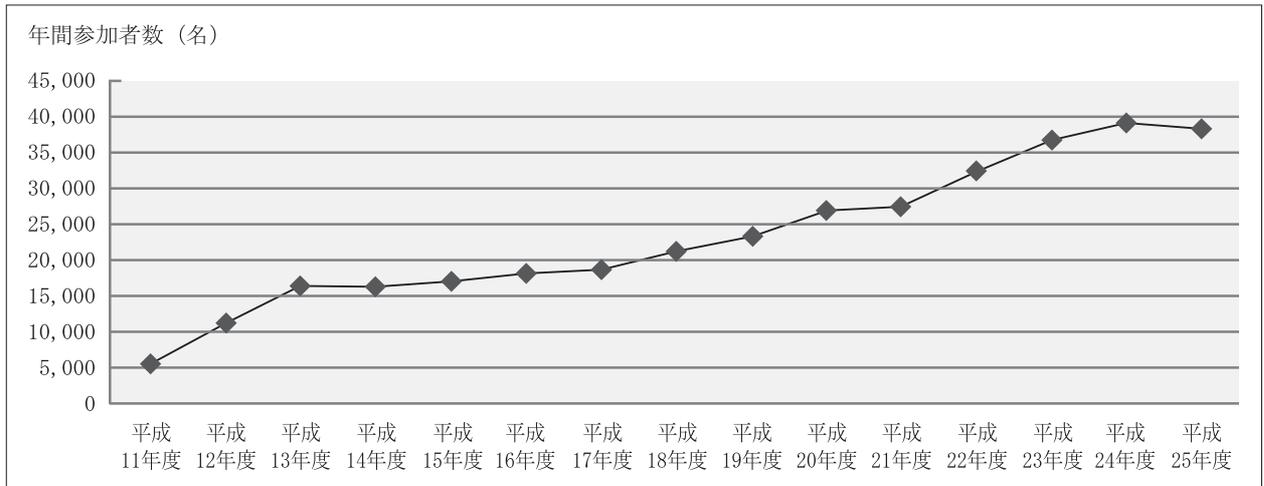
【今後の展望】

作業療法科の基本方針を「安全で楽しく」と掲げ、リスクマネジメントをより徹底し、患者が自ら参加したくなるような効果的で楽しんで頂けるOTを提供し続けたいと考えている。「リスクマネジメントをより徹底する」の具体策としては、入院患者の高齢化が確実に進行している中で、同程度の転倒でも「打ち身が打撲、打撲が骨折」と回数は減少しても傷害の程度が大きくなってしまいう傾向にあるので各病棟とOTで連携して、適切な靴の指導、プロテクターなどの安全具の着用指導を行い、転倒自体の減少を図るとともに、万が一に転倒してしまっても最小限のリスクで済む努力も合わせて進めていきたい。

文責 細野 政昭

【実績】

◇平成11年5月開設以来、年間参加者が増加している。



◇月単位の対前年比較

〈単位:名〉

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実数	3,396	3,003	3,135	3,482	3,539	2,933	3,530	3,154	3,039	3,009	3,029	3,134	38,383

◇病棟単位での対前年比較

〈単位:名〉

病棟	1階北病棟	2階病棟	3階病棟	4階病棟	5階病棟	合計
実数	9,249	9,188	3,741	9,624	6,199	38,383

◇平成25年度 フリーカラオケ参加者数

〈単位:名〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
回数	4	3	5	4	5	4	4	4	3	3	4	5	48
実数	77	43	77	79	93	88	68	62	69	51	70	99	799

◇平成25年度 個人OT実施者と延べ回数

〈単位:名〉

病棟	1階北病棟	2階病棟	3階病棟	4階病棟	5階病棟	合計
患者数	0	44	14	2	6	66
延べ実数	0	758	120	18	79	971

◇平成25年度 外来OT参加者数

〈単位:名〉

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実数	34	34	33	51	30	38	43	28	24	24	14	29	382